

犬の星座(2)

水野千里

第二小犬座

1. 學名 Canis Minor
2. 學名の物主格 Canis Minoris 略符 CMi
3. 命名者 Ptolemy の恒星目録にあるもの
4. 概略位置 赤経7時30分 赤緯北6度
5. 午後八時南中月日 3月11日
6. 隣星座 北は“双子”，東は“蟹”，“ヒドラ”，南から西は“一角獣”。
7. 星の等級 一等星— α 二等星 なし 三等星— β
四等星 なし 五等星— $\gamma, \delta, \epsilon, \zeta, \eta, 1, 6, 11, 14, \dots$
8. 星の固有名 α =Procyon β =Gomeisa
9. 星の支那名 南河三星— α, β, η 水位四星— $\zeta, \theta, \sigma, \rho$
10. 主なる星 α は光度0.5, スペクトルF型, 赤経7時35.8分, 赤緯北5度24分にあつて、固有運動は1.24 秒, Pは214度, 視線速度—3.0軒, 視差0.101 秒である。この星は連星で十三等の伴星がある。そして週期は四十年だ。 β 星は三等星で他に著しいものはない。プロシオンは希臘語「犬の先驅」の意でシリウスより一步先に、毎夜東天に現はれ、エジプトでは曆學上必要で、シリウスが觀測された關係上、此のプロシオンも重要な星として取扱つた。

11. 詩歌

天の原 遊ぶ小犬を あはれにも 一角獣の 今突かんとす 平松閑月
 北河星—北河稱—北戌— 相對兩星研 氣映—蟠桃—耀 雙童不—記—年 池田喜欣
 水位星—水位在—東井— 由來主—水衡— 銀河如漲溢 豈沒—我滄瀛—

12. 神話 獵人オリオンに伴はれたる二匹の犬の一である。

私は去大正十五年夏臺灣に旅行した、時臺中邊の蠻人が「彗星が現はれる」とて騒いで居ることを新聞紙上で見たので、それを確めんとて、午前五時頃東天を見たところ、オリオンの星霧が地平線上に近く、濃氣の中にあつてボ

として居る様子が恰も星彗の様であつたので、蠻人はこれを見て騒いで居るなと思ひ、その旨を臺中の新聞社に知らせたことがある。其の時シリウスが現はれたのに、プロシオンが見えない、エジプトや我が内地邊ではプロシオンが先きに見え出して、それからシリウスが現はれるのに臺灣では、未だプロシオンが見えないのに、シリウスが輝いて居るこれは變だなと考へ、プロシオンは未だかと探して居るうちに夜が明けて星は見えなくなつた。恒星の消失は前代未聞の大事件であるとして、京都天文臺に「プロシオンサガセ」⁷といふ電報を打つたことがある。これは緯度の關係であつて恒星の消失ではなかつたので、後で京都天文臺に行つたとき大に笑はれたことがある。今一つ笑話を付け加へやう。八月二日夕刻高雄港外にあつて、撫順丸の甲板で南西の天を眺めセンチウル座 α 、 β 星を觀望し得て大に喜んだが、十字架座は日没前に地平線下に沒したことを知り大に落膽した。此度の臺灣行の主目的はセンチウル座の α 、 β 星と十字架座とを見るのにあつたからである。其處で京都天文臺に次の通り打電したところ、同天文臺ではその意味が判らなかつたとのことである。「センミエター一〇ダメ」⁷センはセンチウルの意、一〇は十字架を意味したのであつた。

第三 獵 犬 座

1. 學 名 Canes Venatici
2. 學名の物主格 Canum Venaticorum 略 符 CVn
3. 命 名 者 Hevelius (1690年)
4. 概略位置 赤經13時0分, 赤緯北40度
5. 午後八時南中月日 4月2日
6. 隣 星 座 北は“大熊”, 東は“牧夫”, 南は“髮”, 西は“大熊”。
7. 星の等級 三等星— α 四等星— β
五等星—5, 6, 14, 15, 20, 25……………
8. 星の固有名 α =Cor Caroli β =Asteri n
9. 星の支那名 三公三星? 常陳= α , 6, 10, ……………
10. 主なる星 α は赤經12時52分, 赤緯北39度にあつて、二重星である。三等星と六等星。その距離は20秒、此の星は昔ハレムが「チャアルスの心臓」⁷

と唱へた星である。

星團M三號 赤經13時39分、赤緯北29度にあつて、星團であるが、小望遠鏡では星霧の様に見え、中に多數の變光星がある。

M51 獵犬座、髮座及び乙女座には星霧が特に多いのが目にたつ。M51は渦狀星霧の代表的の一つで、毎秒25軒の速さで地球から遠ざかりつゝあるのである。

11. 詩 歌

天空の獸類狙ふ 獵犬も 大熊座には 尾をはさみたり 平松閑月

12. 神 話 コール・カロリ (チャアルスの心臓) の由來はチャアルス王が、1660年五月29日 ロンドンへ還幸された晩、侍醫スカーボロ・卿が、ハレイに異常に輝くこの星に就いて告げたところ、ハレイは王を祝福して命名したものである。

第四 木村鷹太郎氏の星座に関する説

木村氏は、星座に就いて言語學上から特別の意見を「星座と其神話」に發表されて居る。星座圖は全く地球上各方面の地圖を種々の形に表はして其れを天に上げたもので、星の固有名と地名とに連絡あることを説かれた。エリダン座に河の流れの方向が北に記してあるのに目を付け、地球上で北流して居る大河は阿弗利加州のナイル河であるとて、エリダン河とナイルとを比較研究されたことに始まつて居る。

93エリダン座

ナイル河

對 譯

α = Acanar, Achernat.....L. Victori Nyanza

β = Cursa (Crisis).....Kairo

γ Zao-or-acAnti-noe

これにヒントを得て各星座と地球上の地圖とを比較研究の結果、總ての古い星座圖は地圖を天に擧げたものであるとの結論に達せられたのである。それによると大犬座は亞細亞洲の東部に當り、シリウス星は肅慎、ミザル星はブリモール・スカヤ、ウエーゼン星は奉天の對譯である。小犬座は我が本州から四國に當るといふのである。

一月一日午前〇時にはシリウスが南天高く輝き、この頃太陽と赤経が十二時間離されて居るのである。地上は冬枯れの蕭條たるもので、所謂萬目荒涼たる殺風景の時であるが、仰いで天を見るときは、天上の花が咲き亂れて、天空の最も派手な時で、この際見える一等星は大大座 α 星、小犬座 α 星、オリオン座 α 、 β 星、双子座 β 星、龍骨座 α 星、獅子座 α 星、駱駝座 α 星、牛座 α 星の九星を一時に觀望し得るのである。犬の星座三つも同時に見られるのである。寒さは厳しいが空中に最も水分が少ない時であるから、天體觀測には最も適したる時季である。

犬が雪中に戯るゝ様な元氣を出して、天に親しまれることをお奨めする次第である。(終)

醫者と天文臺

昭和8年九月3日堺杏林趣味の會に加はつて京都の花山天文臺を訪れた。一通り何かしら趣味を持合はせては居るが、みんなが醫者である事は間違ひなかつた。だから醫者としてはそれぞれ専門の學問の持主である筈だが、凡そ醫者といふものほど學問から入つて世間に出切つて居るものはあるまいとは平常でも時にふれて思ふことだが、此の醫者を天文臺の上に立たせてばかんとさせてみる風景ほどのんびりすぎるものはあるまい。尤もその日みなさんたちはそれぞれ何か得る處あつた様子の緊張を帯びて歸へられたのだから、醫者なんて天文臺に立たせると随分のんびりしてやがるなと思つたのは一場の専門學説を吐かれた山本一清氏と私だけかも知れぬ。しかし又私自身に於ても、その日の場面を客觀的に描いてみて、さう想つてみるだけのことで、のんびりに幾らかの底もある。

×

都ホテルでみんなで夕食をしたゝめた。丹羽さんの令息が露臺で寫眞をとつて下きつた。しのびよる秋といふやつが夏服を引張つて想ふことはないかとたづねるやうな夕風のそよぎだ。天文學者のマダムは間違なく星の如くに美しい。ど

うも醫者なんて人の顔を朝から晩まで見てゐると紳士的儀禮の席でもだいいちにこれだ。こんな軽い氣持を叩きつけるやうに自動車が私たちを山の天文臺へ抛り上げた。

×

望遠鏡でお月様を見るとしらひ⁷のやうに大きく圓く、その表には寫眞や繪で見る洲や山の如き月の國が美しく大うつしに、などゝ思つてゐたことは大間違ひ何よりも天文臺のもつ嚴肅さに壓倒され氣味で、星圖を披けて黙々と執務して居る人は恰も聖壇に侍せる使徒の行のやうである。それらの仕事は世界中につながるのある一線一點の上にうごいてゐるのである。ネオンサインの光りの波うつ町の地上をちよつとばかり離れた山から限り無き天體に頭を突込んで幾千年もかゝつて地球にとゞく星の光の旅路をいたはる、貴い淨らかな仕事だなとつくづく思つた。さて京洛の灯影を我等の記憶をひるげるだけ擴げた視野の星座と見下してふと、何がなし湧き上つて来るのは三高時代の青春の學生だつた自分の面影さては友の面影。此時、追憶の過去は宇宙の果よりも。遠い天文臺に立つて私は人生の觀測をした氣がした。(圭虫の舎)